

命のストーリー 池田市在住 60代 倉井羽 陽さん

父親を看取り損なって・・・

寒いけど清々しく晴れ渡った朝、母の最期を看取った。苦しい息の中で一瞬見せてくれたありがとうと思われる笑顔。

世の中には、同じような場面は沢山あるだろうが、俺は日本一の幸せ息子かもしれん

しかし、程なく父親の肺がん発覚、世の中はコロナ感染の猛威

いよいよ緩和ケア入院となったが、コロナ感染防止のため一日15分以内面会。汚れものの回収し、飲料水補給、ゼリーを食べさせると時間オーバー

一週間後、医師から「今夜が山場でしょう」（えっ！一か月後と云ってたじゃん！）・・・特別に夜も一緒にいて貰っていいですよ（前言撤回ありがとう先生）

苦しそうな息をしながら眠る父、ハラハラしながらもうたた寝する俺（笑）

何時しか朝になり医師の診察「おやっ？血圧安定してますね 暫く大丈夫でしょう」それを聞いて疲れが出た俺はいったん帰宅する事に。風呂に入ると疲れが出たのか夕方から爆睡、次の日の未明、騒がしいスマホの呼び出し音。

おじさんから「病院から父さん様子が違うと連絡あったぞ」と

慌てて病院に駆けつけると、時すでに遅くこと切れている父さん

ああっ 最後をみとれなかった俺は日本一のアホ息子だ・・・ ごめんな

次に頭に浮かぶのは、寂しさと親戚や葬儀屋さんに連絡だ

一通り連絡を終え、表情を変えることのない父の顔を見ながらホットすると浮かんだことは 昨日の看護師さんの言葉、

「ああ 今朝は穏やかな顔してるわね 息子さんが一緒だったからね」

命のストーリー 池田市在住 40代 岡井 康衣さん

私の母のことです。突然、くも膜下出血になり生死をさまよう大手術を行ない無事成功しましたが、その後、脳梗塞になりました。数ヶ月の入院とリハビリで退院することができ、家族みんなでホッとしました。が、その後、別の病気で目があまり見えなくなってしまいました。それから15年経ちました。今でも母は明るく前向きな声かけで私を助けてくれています。8年前に娘を出産しましたが、母は私に加え、私の娘にも色々な知識を教えてください。私が小さい頃からずっとレールを敷いてきてくれた母、いつもそばにいてくれる、いつまでも元気でいてくれる、そう願ってます。でもいつかは人はいなくなるんですよね。私はまだ身近な人をなくしたことがないので、身近な人がいなくなることを考えられないし、考えたくもないです。でもいつかは・・・

父、母、娘が今、生きてくれていることに感謝してます。周りのたくさんのお友達が生きてくれていることにも感謝してます。私が今この世に生きれていることもとても嬉しいです。1日1日を大切に、じっくりと懸命に過ごしていきたいです。